

オニの対話

登場人物

テイクソーノ

テオフィーロ

ジェルバシオ

ポリニーオ

デイクソーノ 矢れですがポリンニオ先

ほ、それ、に、ジエル、バジオ君、どうか私達の話

の、いや、まあ、うぬ、うぬ、に、い、で、くれ、給、え、よ。

ポリンニオ へ、ソウシヨウ、
(訳註 原文ラテ語)

ジエル、バシオ、このマギステル殿が、ニ、で

お話しなされる以上、私は、ま、って、いる、事は

出来ない。

デイクソーノ、テオフィロ、君は、それ

自身、オ、一、原理、*Primo Principio*、でも、オ、一、原因、*Prima*

causa、でも、はい、もの、*causa*、は、全て、原理、お、よ、ひ

原因を持つと主張するだね。

テオフォーロ 疑いもなく又何の異論も

なくそうだね。

デイクソーノ ^{それ故、}原因と原理を持つている事

物 *cosa* を知れば ^{いふことは、} *conscience* 又その事物がもつて

いる原因と原理とを知る事になると君は考え

ているわけだね。

テオフォーロ 直接原因 *la causa proxima* や直

接原理 *Principio proximo* にいたって、そうやす

やすと知れるものではない。
^いわんやカ一原

^の ^た ^か ^ら ^し ^て ^や 痕跡のみ

足跡だけを見てがかりとして

因 にまつて ヤオ一原理は事物の中の一原の痕跡 estigio と

残り て いるのみであるから、それを知る事は

極めて難しい。ことなる。です。

デイクソーノ そうすると オ一原因とオ一

原理、直接原因と直接原理をもっている事物

は、その作用因 *la causa eficiente* (これは事物と

真に認識する義に不可欠なものの一つである

が) が不明瞭なんだから、真に認識され得ない

本当に知ることのできるというのですか。(誤註) デイクソーノの台詞はこれで終っ

ているが、次のデオソーノの答えから、次のような言葉も補なって考えるべきである。つまり、

勿々としていつて遂にオ一原因にたどりつくではないか

証明するものと
明そのまゝと
は難し
のた
或

論証が、
とシテ理由で
と云う事柄でな
されてゐるから
ふに云ふような
方法によつて

學問の基礎を現狀及び方法を以て書成

明してみても
 事柄は極めて
 易しいこと
 が、
 実際には、
 その

方法を分ける者か
方法は別問題だ。
（教員に抽

紙を働かせて、おほの原理を適用し、その技術を活用せしめて、論理的に直接原因はその前の原因に、そのと前の原因は更にその前の原因に、次々とたどつてい

くても一原因にたどりつくと言つてみたところで何にもなない。原因の体系そのものは

後原因について
 すら何も
 教えては
 くれぬ
 所い
 だから。
 という事
 をブル
 ーはま
 する

うまのしやうは、76です

ジェルバニオ 美しい剣をつくる事は知

ていながら、それを使うことを知らない人の

ようにね。

ポリニニオ へ 確カニ ㄱ (訳註 原文ラテニ語)

ジェルバニオ 眼を再び開けることが出来

ないように聞いてなさいよ。 (訳註 ポリニニオの使ったラテニ語)

name にイタリア語の nome へ眼を聞いてゐる V をかけている

テオフィロ 自然哲学者達に あらゆる原

因と原理とを採り出すように要求すべきでは

なく、直接的自然的原因、原理のみを、そし

彼らは E 1 界のことがらのみ。

てその中
を採り出す
主要で特殊
原因にか
（後者の認識
原理とオ
存のた
系化され
ディクソ
れ給え

要素）
も、主要で特殊な原因、原理のみ
より要求すべきである。これら
な原因、原理はオ一原理とオ一原
ているとはいえず、（前者）の認識から
が導き出されるほど、直接原因、
原因、原理との関係は必然的では
たから両者が同一の学問の中に体
事を要求すべきではないのだ。
（その少し詳しく説明して）
より要求すべきである。これら
な原因、原理はオ一原理とオ一原
ているとはいえず、（前者）の認識から
が導き出されるほど、直接原因、
原因、原理との関係は必然的では
たから両者が同一の学問の中に体
事を要求すべきではないのだ。
（その少し詳しく説明して）

テオファイロ

全ての

物は宇宙創造の原理

である神の意志と善意とによっているのである

るが、それ自身独立性を有しないあらゆる事

物の認識から第一原理及び第一原因の認識に

進むには追跡 *tracing* というあまり効卒のよく

ない方法によるしかない。この追跡という方

法はあまり効力がないのであって、彫像を見

ても直ちにその作家を見るわけにはゆかない

と同様である。(たとえば)ヘレネーの肖像画を見

てもそれはその作家アパツリースを見るわけ

腹

ではなく

その芸

術的天才に由来している或

も作用の産物を見

るのみである。そしてその

作品は作家である

人間の単に偶有 *accidente* にす

ぎず、従ってその

人間の本質に關しては、何

う教えるところの

ないものなりだ。

テイクソーノ

君は、事物は神の作用の結

果であるが、この

結果は、たとえ自然的实体

subtanger naturalis の

たのであるにせよ、もしこ

の結果を用いて神

の超自然的本質 *la divina*

supernaturale natura

の概念的認識を求めようと

するならば、単に全くへだたった偶有 *accidentia*
remotissime にすぎなくなると言いたいのだろう。

テオファイロ *Teofilo* 全くその通りだ。

ディクソーノ *Diksono* 神の本質は無限であり、且

つ神の作用の結果へこれを把握する事が人間

の知的能力の最終目標であるんだが、しかし極

めて遠くへだたっているが、美に、プラトニ派

の人達が言う“追跡”の法、或いはペリパトス派

の言うへだたっている結果 *remota effecta* 法、

訳註

。プラトニストによれば、感覚界は睿智界の痕跡であり、事物はイデアの反映であ

る。又ペリパス派によれば、事物は唯一原因から遠くへ広がっている) 或いはカバ

リスト達 Cabalistic の言う衣服 "indumenti" の法、或

いはタルムテイスト達 "halmutati" の言う肩ある

いは背 "apali o poteriori" の法、默示論者達 Apocali-

ptic の言う鏡と影と謎 "specchio, ombra ed enigma

の法 (註) ユダヤ神秘教 cabala による事物は神の衣服である。タルムトとは言うま

でもなく旧約聖書以後のヘブライの思想を集大成したものであるが、それによると神が予

言者に現われ給う時は顔はお見せにならず、唯背中をお見せになさだけである。ヨハネ黙示

録によれば世界は神の鏡であり謎である) による一かそれと認識

あることは出来ないというわけだね。